

# 作品：「変容していく風景」シリーズ

芸術学部  
写真・映像メディア学科  
教授

百瀬 俊哉



## 研究シーズの紹介

写真作品の被写体となっているのは、人工的な都市空間をはじめ郊外の造成中の地、開発によって原形をとどめることなく削られた地、あるいは廃鉱となり打ち捨てられた地などです。そこでは、さまざまな空間を通して、人間の営みの空虚さ

が表現をするためにこのシリーズを撮り続けています。私が切り取る世界には、単純な怒りや挑戦的な姿勢があるわけではなく、むしろ淡々と、美しさすらたえながらアートの側面を意識しながら活動を継続しています。



### 写真表現（表現力）

- 大判フィルムカメラによる高精細な表現による独特な色彩表現とあいまり、それら作品が風景写真の新たなうねりが生むことを目指します。

発案→資料収集



撮影→選択→写真構成



作品制作→発表



## 期待される活用シーン

- 多様性のあるアートや文化に触れる環境を写真をキーワードとして提供する



違うアイデア、違う見方があることに気づくことは、今後企業が生き残っていく上で非常に意義深い。

- 「写真はいろいろと奥深い」「もっと写真を楽しめるようにできないか」などの情報を発信する



メディアをはじめ様々な媒体への作品提供する。そして少しでも多くの人たちと感動を共有したい。

